

★寺子屋から学校へー各市における近代教育のはじまりー

三島

三島には三嶋大社をはじめ、中世から寺院などが多数存在し、これらの寺社が学校の役割を果たしていましたが、明治5年の学制公布と同時に私塾から切り替わった「三島学校」が誕生しました。三島学校は伊豆地方で最も早い学校でした。



▲三条実美公が揮毫した三島覺扁額

明治6年には三嶋大社境内に勤有学校が創立され、北上・錦田地区の5校を支校としました。同年中郷地区にも中郷学校・大場学校が開設され、明治8年には松本学校が開校しました。

三島学校（のちに三島覺）は吉原守拙・呼我父子が中心となって開いた開心庵舎が基であり、三枝敬之の正心舎、間宮徳兵衛の聿修舎、福井良輔の千之舎を分校としていました（明治7年12月、三島学校へ合併）。現在では三島南小及び三島東小となっています。

また、八反畑の箕田寿平は後素義塾を閉鎖し、中郷学校の校舎として提供しています。この時、旭家塾（中島）・榊家塾（平田）は廃止され、共に中郷学校に吸収されています。



▲兵学校附属小・集成舎の後身小学 沼津学校

沼津

明治元年12月、徳川藩の静岡移封によって、沼津兵学校が開校されました。当時においては、明治政府や他藩をはるかにしのぐ優れた教授陣と教育内容を誇っており、特にその学校の組織・制度や英学・仏学・洋算などの学科にみる優れた特色は、幕末以来の幕府による西洋文化吸収の成果が集大成されたものといえます。兵学校自体は、わずか3年半しか存続しませんでした、それは明治政府に取り込まれ、陸軍士官学校の一源流となったほか、明治2年1月に開設された沼津兵学校附属小学校は日本最初の近代的小学校として、その後の近代教育制度に影響を及ぼしました。

一方、苦しい生活の中にあっても子弟の教育に力を入れた旧幕臣たちは、明治元年9月、「代戯館」という学校を設け、添地町にあった長屋を校舎にあて、ゴザを敷き、雨戸に墨を塗って黒板にして授業を行いました。その後、代戯館は沼津兵学校附属小学校に引き継がれ、明治5年に沼津兵学校が東京へ移転したのを機に「沼津小学校」になりました。その年の8月には「集成舎」と改められ、その後何回か校名を変えたり、分立・統合などしながら、現在の沼津市立第一小学校・第二小学校に発展しました。

富士

明治6年（1873）に現在の富士市に創立した学校（括弧内は現在の小学校名）は、西から諧暢舎・山瀬舎・久沢舎（鷹岡小）、巖松舎（岩松小）、稲中舎・三省舎（富士第一小）、宮島舎・三省舎分校・発蒙堂・誠之舎（田子浦小）、岳陽舎（伝法小）、仰成舎（吉原小）、原泉舎（今泉小）、実践舎（大淵第一小）、穆清舎（吉永第一小）、柏原舎（元吉原小）、湖頭舎（須津小）の17校、明治7年に創立した学校は、大淵舎（大淵第一小）、方正舎（原田小）、香久舎（元吉原小）の3校、明治8年（1875）に創立した学校は、七邑舎（神戸小）1校で、明治初期に21校の学校があったことがわかります。



▲村々に学校ができる(明治6～8年)

- 富士市立博物館 富士市伝法66-2 広見公園内 TEL.0545-21-3380
- 沼津市歴史民俗資料館 沼津市下香貫島郷2802-1 TEL.055-932-6266
- 三島市郷土資料館 三島市一番町19-3 楽寿園内 TEL.055-971-8228

主催：富士・沼津・三島3市博物館連絡協議会



2005.7.3発行



子どもの風景 ～教育のいま・むかし～



はじめに

教育が広く一般庶民までに及ぶようになったのは、明治5年(1872)の学制公布によって各地域に学校が設立されてからだといわれています。それ以前は寺子屋や漢学塾といった、いわゆる私塾が多く存在し、そこで教育を受けていました。

明治19年(1886)に小学校令が制定され、尋常小学校の教科として修身、読書、作文、習字、算術、体操が基本的なものとして定められました。明治23年(1890)には「教育勅語(教育ニ関スル勅語)」が發布されます。

昭和16年(1941)には、国民学校令が制定され、それまでの尋常小学校、高等小学校、尋常高等小学校は国民学校と改称されました。国民科(修身・国語・国史・地理)、理数科(算数・理科)、体錬科(体操・武道)、芸能科(音楽・習字・図画・工作・裁縫・家事)、実業科(農業・工業・商業・水産)、外国語その他の科目が定められ、これが今日の教科科目制の原型となっています。

戦後は昭和22年(1947)に教育基本法、学校教育法が公布され、試案という形で学習指導要領が発表されました。また、平成14年(2002)からは完全学校週5日制が実施されて、今日に至っています。

今回の企画展では、子どもたちの過ごしてきた「学校」という場を中心に、教育の歴史を振り返ってみたいと思います。

三島市郷土資料館 平成17年 7月3日(日)～平成17年 9月4日(日)

富士市立博物館 平成17年 9月17日(土)～平成17年 12月18日(日)

沼津市歴史民俗資料館 平成17年 12月24日(土)～平成18年 2月26日(日)

国語

国語は、「話すこと」、「聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」を通じて、伝えあう力や考える力、想像する力を養っていくことを目指す科目です。明治初期の国語教育は、綴字・習字・単語・会話・読本・書牘・文法というように、それまでの寺子屋方式と、西洋流の方式を混在させたものでした。それらは、徐々に読み方・書き方・綴り方の三つに整理されていきました。戦後には、コミュニケーションを重視するアメリカの国語教育の影響も受けて、今日にいたっています。



『尋常小學校國語讀本 卷一』(左)と『尋常小學校國語讀本 卷十二』(右) 明治6年(1873)発行 当時の家庭の様子や子どもたちの服装がわかります。



掛図(第二単語図) 明治7年(1874) 「ワ」と「ハ」、「オ」と「ヲ」の違いなどを身の回りのものを使って解説したものです。



掛図(第六連語図) 明治7年(1874) 連語図では、衣食住やものの単位など、さまざまな事柄を文章で学ぶようになっています。

算数

算数は、「数と計算」、「量と測定」、「図形」、「数量関係」といった知識をもとに、毎日の生活の中のさまざまな事に対して、筋道を立てて考えていくことのできる力を養う科目です。江戸時代には、日本独自の数学である「和算」が発展していました。明治以降の近代化と共に、算術というかたちで算数は発展していきますが、当時の算術は「数と計算」が重視され、「数え主義」と呼ばれていました。戦後には、数え主義の克服を目指し、現在にいたっています。



かずのおけいこ 昭和44年(1969)使用 「数」の概念を学ぶための教材です。現在でも同様のものが用いられています。



教師用木製そろばん 富士市立富士第二小学校で算数の授業に用いられていた道具です。子どもたちが使い方が分かりやすいように、大きなサイズで作られています。



掛図(乗算九九図) 明治8年(1875) かけ算の「九九」を表でおぼえるようになっています。



算数の授業の様子(昭和46年) 当時最先端の教育機器であったOHP(オーバーヘッドプロジェクター)を使って授業をしています。

理科

私たち人間や身近な生物の成長や体のつくり、身の回りの環境の状況や変化、そして環境と生物のかかわりを観察、実験などによって体感し、自然の事物・現象についての理解を深めていくことが理科の目的です。それまでの自然科学の科目を統一して、明治19年(1886)にはじめて「理科」という科目が生まれました。理科は実物観察を重視する科目のため、一時期、教科書の使用が禁止されたこともありました。現在でも、実験や観察を中心にして、子どもたちみずから発見の喜びを味あわせるような授業の方法と内容が開発されています。



顕微鏡 目では見ることのできない、ミクロの世界を知ることのできる道具です。



人体模型 人体模型と骨格標本は人体の仕組みを知るためになくてはならない教材でした。



理科実験道具 理科では、いろいろな実験を行います。実験に対応して、いろいろな道具が用いられます。



両天秤 もののつりあいを学ぶための教材です。錘の個数やつる場所を変えて実験を行います。

社会

わたしたちの住む地域や日本、世界に生きる人びとのくらしの様子や歴史・文化を学ぶことを通じて、それぞれの場所の相互理解を目指すことを目的にした科目が社会です。社会は戦前の修身・公民・地理・歴史をあわせた形で、戦後の教育改革によって、新しく生まれました。社会では、教科書は参考書として取り扱い、生徒と教師が地域に出たり、資料を集めることによって、自らの体験によって学んでいくということも重要な科目です。



学校区の地図 身近な地域のことを学ぶために校区の地図が用いられました。



『日本歴史大地図3平安時代』昭和48年(1973)発行 歴史上の出来事と地図を組み合わせたものです。いつ、どこで、何が起きたのかを知ることができます。



地球儀 地球儀には、行政タイプ、地勢タイプなどがあり、世界各地の国々や、山岳や平野など地球の様子が一目でわかるようになっています。



社会科見学の様子(昭和48年) 富士市消防庁舎 消防士さんの話を聞いて地域の消防について学びます。

音楽

日本では明治5年（1872）、小学校に「唱歌」、中学校に「奏楽」という教科がおかれました。明治14年、日本の学校教育で初めての音楽教科書「小学唱歌集」が文部省から発行され、「蝶々」「蛍の光」などの歌が収められました。

小・中学校にあっては、毎週1～2時間の授業のなかで、教科書などを使った歌唱指導、リコーダー・鍵盤ハーモニカなどの器楽指導、音楽鑑賞、初歩的な楽典の指導などが行われています。一方、学校教育以外でも、1960年代からは楽器会社や個人の音楽教室が盛んになり、ピアノのレッスンを受けたり、またテレビやレコードによって音楽を楽しむ子どもが増えてきました。



授業で使った楽器

たて笛やハーモニカ、カスタネット、鍵盤ハーモニカなどが器楽演奏に使われます。



足踏み式オルガン

各教室に一台ずつあり、低学年時の音楽の授業やクラスの歌の時間に活躍しました。現在は電子オルガンに替わっています。

体育

日本の学校教育で体育に関する教科が設けられたのは、明治5年に小学校の教科として「体術」という教科が「養生法」とともに定められたことに始まります。教育勅語以降、学校体育は普通体操と兵式体操が主要な教育内容となりますが、戦後は連合国軍の管理下で教練や武道などが禁止され、体操も反復訓練は望ましくないとされました。これにより、戦前は体操・教練・武道中心であった体育がスポーツ中心、保健重視の方向へと転換を遂げることになりました。

現在小学校では、陸上運動、器械運動、表現運動（フォークダンス）、水泳、球技を始め保健などが教科の内容となっています。



跳び箱の様子

器械運動を代表するのが跳び箱やマット運動です。



水泳の様子

6月末になると夏の体育授業としてプールで水泳が行われます。

給食

学校給食のはじまりは、明治22年（1889）、山形県鶴岡町の私立忠愛小学校において、貧困児童のためにおにぎり・焼き魚・漬物の昼食が無料で配布されたのが最初です。大正から昭和にかけては、ほとんどがおにぎりや漬物という内容で、貧困・虚弱児童救済、就学奨励のために行われていました。

昭和21年（1946）日本は食糧危機のため、ララ（アメリカの慈善組織アジア救援公認団体）寄贈食料品のミルク（脱脂粉乳）やトマトシチューなどにより、東京・神奈川・千葉の3都県の試験給食が再開されます。さらに昭和27年（1952）4月には全国全ての小学校を対象に完全給食が実施されました。当時の代表的な献立としては、コッペパン・ミルク（脱脂粉乳）・鯨の竜田揚げなどがあります。

それまでは給食の主食はパンでしたが、昭和50年代に米飯給食を実施できるようになりました。

学校給食が開始されたころは、児童の栄養補給の役割を担っていましたが、最近では児童の健康を考えた栄養教育、食教育の場としての役割を担うようになっています。



昭和30年代



昭和40年代



現代

図画工作

第2次大戦前では図画科という名前で図画教育が行われていましたが、今日、その名称は小学校においてのみ図画工作科という形で残っています。

図画が学校教育にはじめて取り入れられた明治5年（1872）の「幾何学畧画大意」や「画学」で、作図のための科学教科の補助学科学的性格が色濃いものでした。このため図画教育は、鉛筆、ペン、クレヨン、絵の具、木炭などによる描画を中心とした性格を持ちますが、今日では作品鑑賞や工作などの造形も取り入れ、また写生大会などの行事も含めて美術教育による人間形成を目指すものとなっています。



絵画の道具

絵画は図画工作の中心です。絵の具セット、色鉛筆、クレヨンなどがよく使われています。



工作の作品



『尋常小学図画第五学年女児用』
昭和9年

家庭科

1947年の新学制で小・中・高校に新設された教科の一つです。日本の近代教育の歴史では、1881年の〈小学校教則綱領〉で、「裁縫」と「家事経済」がおかれ、女子向けの教科として家事・裁縫科が確立しました。現在では、小学校5・6年に週2時間の「家庭科」があり、裁縫の実習や調理実習などを行い、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して日常生活に必要な知識と技能を身に付けることを目的としています。



裁縫のセット

裁縫の授業で使うための道具（縫い針、ヘラ、ハサミなど）が入っています。



家庭科室の様子

調理実習につかう流しやコンロ、裁縫に使うミシンなどが揃っています。

休み時間

休み時間は授業の合間にある10分程度の短い休み時間と、給食が終わった後の昼休みがありました。授業の合間の休み時間は、特別教室（理科室・音楽室など）への移動がない限り、教室や廊下で過ごすのが通常です。僅かな時間を利用して、プロレスごっこやけん玉、おはじき、メンコ、ビー玉、ヨーヨー、リリアン、ピースなどの遊びに興じていましたが、あまりにも加熱したりまた流行モノは持ち込み禁止になったりしました。時代の推移と共に、これらの遊びも道具も変化しています。

昼休みには校庭へ出て、鉄棒や雲梯、回旋塔などの遊具で遊んだりドッジボールや三角ベースなどを行ったりしました。



けん玉



コマ



めんこ



ビー玉



ヨーヨー



昼休み時間の様子
遊具で遊んでいるところ

放課後

昔の子どもは小学生ぐらいになると、年齢相応の仕事が与えられました。子ども時代は一人前になるための準備期間であり、家の手伝いをし、親を助けながら、日常生活や生業に必要ないろいろな技術を習得していきました。

兄弟姉妹が多い昔の子どもたちは、学校から帰ってくると、小さい弟や妹の面倒をみました。自分が遊びたい盛りでありながらも面倒みはよく、小さい子を連れて遊びに行ったり、おぶりながら遊んだりというのはごく自然のことでした。大正生まれの人たちのなかには、農繁期に赤ん坊をおぶって学校へ行ったという人もいます。

男の子は草取りや草刈りなどを、女の子は炊事や掃除などを手伝いました。水汲みや風呂の燃しつけもやりました。田植えや茶摘み、稲刈りの頃の農繁期には、農繁休暇あるいは農休みといって学校が休みになりました。子どもは、田植えや稲刈り、苗運びや苗配り、稲の担ぎ出しなどを手伝いました。また、リヤカーの後押しや藁の片付けなども手伝いました。男の子は、代かきのときの牛の鼻どりを手伝うこともありました。ミカン農家ではミカン取りを、網を使った沿岸漁業を行う地域では網曳きを手伝うなど、各家によって子どもの役割は異なりました。

それから少し時代が経つと、家の手伝いがありなかなか外に遊びに出られない子もいましたが、学校が終わって家に着くなり、元気よく飛び出していく子どもたちが多くなりました。外に出れば、各町内ごとに子どもたちを率いる餓鬼大将（リーダー）がおり、その集団のなかで遊びました。餓鬼大将にもそれなりの度量と器が必要で、何よりも喧嘩に強いこと、あらゆる遊びにたけていること、的確な判断力などが要求されました。

子どもたちは、そのような集団の中でもまれ、喧嘩をやり、たくましく成長していきました。自分がどこまで主張してよいか、どこまで我慢しなくてはならないかをこの中で学びました。それは、学校や親たちが教えてくれるものとは明らかに別のものでした。

たくさん遊びましたが、宿題もしっかりとやっていました。うっかり宿題を忘れて行ってしまうと、翌日はもっとたくさんの宿題が出てしまうのがわかっているので、遊び疲れていても、眠い目をこすりながら、その晩は必死に机にむかいました。



放課後 釣りをして遊ぶ

校外での習い事

一昔前は、今でいう学習塾はありませんでしたが、習い事の塾というのはあり、子どもたちはたいてい算盤塾か書道塾かのどちらかに通っていました。最近では習い事の選択肢も増え、ピアノや水泳、空手や剣道、野球、サッカーなどを習う子どもたちが増えました。

また、これらの習い事とは異りますが、沼津には以前、校外においても児童の心身を鍛錬しなければならないという考えから発足した岳陽少年団というものがありました。この岳陽少年団は、イギリスから入ったボーイスカウトの流れに対し、純国産の少年団といえるものであり、その設立時期の早さや規模の大きさ、国の政策を先取りしたといえる組織・活動などから、静岡県内のみならず全国にも大きな影響を与えました。



書道塾(昭和61年)
書道塾へ通っている子どもの字は、力強く美しいものです。学校に提出し、優秀作品に選ばれば金、銀、赤などの色紙が貼られました。



少年野球(平成9年)
野球は今も昔も変わらず、子どもたちに人気のスポーツです。



岳陽少年団の行事・義士祭
赤穂浪士の討ち入りに模したもので、毎年冬に行われました。義士に扮した団員が千本松原に集まり、吉良上野介の首に擬した大根を探し合うというものでした。

学校生活

- 四月 始業式 (新一年生は入学式)
- 七月 終業式
- 夏休み
- 九月 始業式
- 十二月 終業式
- 冬休み
- 一月 始業式
- 三月 修了式



振鈴
昔の学校には今のようなチャイムはなく、「ガランガラン」と小使さんが廊下でカネを振って、始業の時間を全校に知らせました。授業の終了も小使さんのカネが合図でした。



入学式後の教室(平成4年)
入学式の日、真新しい服に、初めて背負うランドセル、子どもたちはこれからの学校生活に胸を弾ませます。入学式後には、教室で担任の先生の紹介があり、教科書などが配られます。



通信簿
毎学期の終業式には、通信簿が手渡されます。ホッとした顔つきの子、ガッカリ気落ちした子など様々です。

これを六年間繰り返すと卒業です。一年生、二年生、三年生と学年が一年ずつあがっていくたびに子どもたちは心も身体も成長していきます。

学校行事

秋は運動会、遠足、学芸会などの大きな行事が次々と行われ、子どもたちにとって大変忙しい季節です。運動会や学芸会は、学校のお祭りでもあり、父兄にとっても欠くことのできない年中行事で、娯楽の一つです。



戦時中の運動会(昭和19年頃)
時代とともに競技種目は変わります。太平洋戦争もたけなわ、運動会に竹槍やなぎなたが登場しています。



運動会(平成10年)
競技の花形は騎馬戦や棒倒しでした。運動会が間近にせまってくると、各学年ごとや、ときには全校生徒が揃っての予行練習が頻繁におこなわれます。(沼津市立第四小学校提供)



バラック校舎での学芸会
戦後まもなく、焼け跡に仮設校舎を建て、その教室で楽しい学芸会が行われました。



遠足(昭和62年)
上級生たちとペアを組み、歩いて目的地へ行きました。

夏休み・冬休み

夏休みになると、朝毎日のようにラジオ体操があります。大人も子どももそろってラジオ体操第一、第二をたっぷりやって汗をかき、帰りに出席カードにスタンプを押してもらいます。帰ってきた後、朝食をとり、午前中の涼しい時間に宿題をします。夏休みには、朝顔の観察絵日記や自由研究、図画工作などの宿題も出されます。昔の子どもたちは、自由研究といえば、昆虫採集や植物採集、ありの観察でした。宿題が終わると家を飛び出し、一日中遊んでいました。夏の遊びの代表的なものは、魚捕りや虫捕り、水遊びでした。子どもたちは、虫を捕り、魚を捕り、草花や木の実を摘んだり、自然とのかかわりの中で、知らず知らずのうちに多くのことを学び、心もはぐくまれていきました。

冬休みは、夏休みと違ってあっという間に終わってしまいます。宿題はほとんど出ませんが、書き初めは宿題に出されます。書き初めを書くと、気持ちがひきしまりました。



夏休みの宿題
夏休みには、「夏休みの友」や絵日記など、たくさんの宿題が出されます。